会 議 録

会議の名称		令和元年度第1回守谷市協働のまちづくり推進委員会		
開催日時		令和元年7月26日（金） 開会：午後2時　閉会：午後4時00分		
開催場所		守谷市役所3階庁議室		
事務局（担当課）		生活経済部　市民協働推進課		
出席者	委　員	石井会長，徳田副会長，佐藤委員，須賀委員，椎名委員， 正木委員（10名中6名出席）		
	事務局	松丸市長，岩田生活経済部長，鈴木市民協働推進課長，会見補佐， 高橋主査，柳葉係長，豊谷主任		
公開・非公開の状況		☒ 公開 ☐ 非公開 ☐ 一部公開	傍聴者数	1人
公開不可の場合 はその理由				
会議次第		1 開　会 2 会長あいさつ 3 市長あいさつ 4 新委員紹介 5 報告事項 ・守谷市協働のまちづくりワーキングチーム会議報告 6 諮　問 ・守谷市協働のまちづくり推進指針[改訂版](案) 7 審議事項 (1) 守谷市が目指す協働のまちづくり (2) 協働のまちづくりを推進するために (3) 今後の展開 8 その他 9 閉　会		
確　定　年　月　日		会　議　録　署　名		
令和元年10月7日		石井　大一朗		

審 議 経 過

1 開会

事務局（鈴木）： 開会に先立ちまして、委員の皆様「会議録における発言者氏名記載の是非」について御協議いただきたいと思ひます。

本日の「守谷市協働のまちづくり推進委員会」は、会議録を公表することとなっておりますが、発言者の氏名は原則非公表、「ただし、発表者の氏名を公にしても率直な意見の交換及び意思決定の中立性が不当に損なわれる恐れがないと認める場合であつて、かつ、会議において承認を受けた時は、この限りでない」と規定されています。

昨年の12月に開催しました本委員会においては、氏名は記載しても良いとの御判断を得ておりますが、この方針を継続し、氏名は記載することよろしいでしょうか。

【全会一致で各委員の氏名記載を了承】

2 会長あいさつ

【会長あいさつ】

3 市長あいさつ

【市長あいさつ】

4 新委員紹介

【委嘱状交付】

事務局（鈴木）： それでは、「守谷市協働のまちづくり推進条例施行規則」第9条第1項の規定に基づき、今後の議事進行を石井会長にお願いいたします。なお、委員総数10名のうち6名が出席ですので、「守谷市協働のまちづくり推進条例施行規則」第9条第3項の規定により、本日の委員会は成立いたします。それでは、会長よろしくお祈りいたします。

5 報告事項

・守谷市協働のまちづくりワーキングチーム会議報告

石井会長： それでは報告事項「守谷市協働のまちづくりワーキングチーム会議報告」について、事務局から説明願ひます。

事務局（柳葉）： 【資料に基づき説明】

石井会長： ありがとうございます。座長を務めていただいた徳田副会長からも、補足説明がありましたら願ひます。

徳田副会長： 今御報告いただいたとおりワーキングチーム会議を2回開催しました。市民協働推進課で2つの事業をやっていますが、2つの事業の関係性が一般の人には分かりにくいという事があり、一体化して告知をするとともに

違いも分かるようにする, というところが大きなポイントかなと思います。そのあたりをロードマップで整理しましたので, 後はこれを実行していくという事になると思います。募集要項の改善前と改善後の資料がありますが, まだまだ工夫できる場所があると思いますので, 推進委員会でも皆さんに御意見をいただく機会があってもよいと思います。

石井会長： ワーキングに参加された, お二人からもお願いします。

須賀委員： 私は市民提案型協働事業に提案させていただいたことがあります, その時に抱えていた問題や課題が整理され, 次に提案される方のためになったかなと思います。こういう事業は凄く価値があるものだと思いますし, やりたくてもきっかけがないという方は多いと思います。私ももりや市民大学で副業をテーマにしたセミナーを開催させていただきましたが, 何かやりたいがきっかけがないという意欲的な市民の方が多かったので, 提案事業や公益活動助成金の紹介をさせていただきました。今後ロードマップがしっかり実行されて, 応募が増えることを期待しています。

佐藤委員： 私は市内のボランティア団体3つに所属しています。そのうち2つは自分が主催で運営しています。この3つの団体どこでも, 助成金の申し込みをしようかという話がありましたが, ハードルが高く, どうしたら採用されるかもわからないので, 申請はしませんでした。そういう一般市民目線で話をさせていただきました。前回, 高木委員からお子さんが守谷市でこういう事があつたらいいのではという夢を語ってくれた。自分が実現できなくても, アイディアを持っているお子さんを始め, いろいろな意見があるから, いきなりハードルの高いことをやってではなく, まずは意見だけでも出し合って, 市と一緒に考えていければという事でした。私も刺激を受けましたので, いい形で一緒に御協力できたらと思っています。

石井会長： ありがとうございます。直ぐ出来ることはやっていただき, 時間をかけてやる場所は, じっくりと取り組んでいただきたいと思います。ワーキングに参加しなかった委員の皆さんから, 御意見等がありますか。

椎名委員： 商工会青年部でも公益活動助成金を使わせていただきましたが, イベントのポスター等へも助成金を活用していますなど, 掲載していただきPRしたらよいと思います。

事務局(柳葉)： はい直ぐ出来ることですので, 次回決定した団体にはお願いしていきます。

石井会長： これは呼び方を変えていくとか, 検討していくのですよね。

徳田副会長： 愛称とかキャッチコピーを募集して, 分かりやすくしていくという事です。何のためのものなのか, 何が出来るのかをちょっと見て伝わるのは重要ですので, そのあたりを見直すという事です。

正木委員： 市民提案型協働事業とは何か, 非常に難しいと思います。我々のやっ

ている活動はこれに合致するのか、助成金事業についても同じで合致するかどうかはわかりません。もっと具体的に分かりやすく、伝わるような表現にしてほしい。

石井会長： こういう事業があるんだよと伝える人が必要ですね。いろんなところに行って、協働事業や助成金について提案できるような、行政の方や中間支援センターの方がわかりやすく伝えることができれば、もっと広がっていくと思います。報告事項については一応終わりにしまして、次お願いします。

事務局（鈴木）： それでは、「守谷市協働のまちづくり推進指針〔改訂版〕（案）」につきまして、市長から諮問させていただきます。

【市長から諮問書を読み上げ、会長に手渡す】

6 諮 問

・守谷市協働のまちづくり推進指針〔改訂版〕（案）

石井会長： ただ今、諮問をいただきましたので、ここからは、諮問に関する審議に入りたいと思います、まず、諮問内容について、もう少し詳しく事務局から説明をお願いします。

事務局（高橋）： 【資料に基づき説明】

石井会長： ありがとうございます。今の点につきまして、質疑・意見等はございますか。スケジュールとしては、基本的には今日この場で議論をして、出来ればお答えする。ただ場合によっては議論が収まらない場合もあると思いますが、その時にはどのようにすればよろしいですか。

事務局（高橋）： 本日も限られた時間の中ですので、もし議論が活発化してまとまりきれない場合は、本日終了してから1、2週間時間を置きまして、持ち帰っていただいて皆さんから御意見をいただく。それを会長・副会長、事務局に一任いただいて、改訂を進めるという事にしたいと思います。それでもまとまりきれないという事であれば、答申に意見を付するという形にすることもできるかと思えます。必ずしも今日、終わらせるという事でもなくてもよいと思っています。

石井会長： はいありがとうございます。今の点についてよろしければ、それぞれの点をもう少し詳しく説明いただいて、審議していくという事にしたいと思います。

7 審議事項

（1）守谷市が目指す協働のまちづくり

石井会長： それでは審議事項（1）「守谷市が目指す協働のまちづくり」について事務局から説明をお願いします。

事務局（高橋）： 【資料に基づき説明】

石井会長： はいありがとうございます。大きな視点から、細かい言い回しまでい

ろい御意見があると思いますが、如何でしょうか。

徳田副会長： 第2章からのつながりという部分で、3ページ第2章1. 協働のまちづくりの現状の「新たな視点からの協働のまちづくりが必要です」で、従来の協働のまちづくりのパターン図がありますが、新たな視点からの協働のまちづくりが必要です、6ページの「2. 発展的かつ幅広い協働の推進」のところの「これからの協働のまちづくりのパターン図」に繋がっていると思います。これを読んでいると、3ページから宙に浮いたまま、6ページのパターン図まで飛ぶので、新たな視点からの協働のまちづくり、が解決するのに時間がかかり過ぎるので、構成的に変えられるといいなと感じました。もう一つは協働の定義ですが、条例にも「協働のまちづくり」の定義しか謳われていませんが、先程の3ページと6ページの図の中で「市民」が何回か出てきますが、協働って基本的には組織間の協働なので、「市民」個人ととられてしまうと、微妙な問題が出てくるのかなと思います。あくまでも団体間とか、組織間のところが協働と理解する事が多いので、「市民」が出てくるところをどういう風に考えていくかという事です。また、6ページ3番のところの「市民公益活動団体」と「市民公益活動団体」という姿がありますが、これも定義が「協働はパートナーとして連携し」というところなので厄介ですが、連携と協働を結構使い分けていて、異種異質な組織間が協働で、同種な組織は連携と使い分けています。これは条例でうちはこのように定義していますといえれば済みますが、市民個人が出てくるとか、同種の団体も協働と位置付けているのは、少し引っかかるという人もいるのかなと感じました。

石井会長： 今すぐ回答という事ではないと思いますが、他の委員の方からも御意見を出していただきたいと思いますが如何でしょうか。

松丸市長： 徳田副会長、市民というのは市民団体と言い換えた方が良いという事ですか。

徳田副会長： 難しいですよ、例えば7ページのまちづくり協議会の図だと、地域住民（自治会・町内会）となっているので、市民団体というと逆に自治会・町内会はイメージされなくなってしまいます。その辺のニュアンスで市民となっているのかなと思います。

石井会長： それ以外の御意見はありますか。

正木委員： 5ページで新たに2つの基本原則を追加したいという事だと思います。それは13ページにも書いてありますが、PDCAを繰り返すことによって発展的に前進する。それが（4）目的共有の原則、（5）評価共有の原則となっているので、2つ追加することは問題ないと思います。私は前から「協働」という言葉がピンとこないところがあります。我々の認識だと協働は共に働いて動くという事だと思いますが、協働という言葉にこだわり過ぎていると思います。別な言葉に置き換えられるなら、その方がいい

のかなと感じています。

石井会長： 今の話で、新規で入れるところが大きな改善点で、それがいいかという結論を今日はもらわなければなりません。正木委員からは4と5についてはいいのではないかという事でした。それとは別に協働のまちづくりという言葉が理解しにくいとか、一般市民の方には捉えづらいというところがあって、それを指針の中でどうするか。指針は指針でこのままで行って、他の方向性があるのか。では、佐藤委員お願いします。

佐藤委員： 一般市民目線で申し訳ありませんが、この協働のまちづくり推進指針は、職員の方がこれを見て参考にするのですか。誰がこれを見て、このとおりまちづくりをしなければと理解をするのですか。

事務局（高橋）： 条例の2条にありますように、「協働のまちづくり」とは、市民、市民公益活動団体、事業者、まちづくり協議会及び市、誰もがこれを見て協働のまちづくりを進めていきたいと思いますという事です。行政の職員もこれを見て、協働のまちづくりはこういう風にやるのだ、と学んでいくという事です。

佐藤委員： 市の方だけではなくて、まちづくり協議会の皆さん、地域の皆さん、守谷市民の皆さんに理解していただくという事ですね。

徳田副会長： 6ページで追加された「評価共有の原則」のところで、協働する者同士が、相互に評価・検証することは、とありますが何を評価・検証するのかが抜けていて、素直に読むと相手进行评估すると読めてしまう。でも多分そうではなくて、13ページのPDCAサイクルの話がありました。協働のあり方を検証するとなっているので、あり方の話なのか、やり方も検証しないと意味がないので、そのあたり目的語を明確にした方がよいと思います。

石井会長： この4、5の項目自体はどうですか。

徳田副会長： こういう項目が入ってくるのは、よいと思います。

石井会長： 他の委員の方も、新規で入ってくる4、5の項目はよろしいですか。私もいいんじゃないかと思います。それでは審議事項の(2)、(3)についても説明いただいて、最後に御意見をいただきたいと思います。事務局から説明をお願いします。

(2) 協働のまちづくりを推進するために

(3) 今後の展開

事務局（高橋）： 【資料に基づき説明】

石井会長： ありがとうございます。では、3章も含めて御意見をいただきたいと思います。

徳田副会長： 範囲外ですが、第4章だけなぜ口調が変わっているのですか。他は「です」、「ます」調ですが、突然「する」になっています。

事務局（高橋）： 条例からそのまま抜き出していますので、訂正したいと思います。

徳田副会長： 10ページの推進組織のところですが、推進という言葉はどうとらえ

るかによりますが、まちづくり協議会は自分自身も担い手になるというところなので推進だと思えますが、市民活動支援センターはどうなのか。協働のまちづくりを推進なのか支援なのか、というところで並列で書いていいものなのか、少し気になりました。それから第6章の12ページですが、星印の1つ目で「市民や各種団体等」とありますが、星印の3つ目で「市民や各種団体」となっています。これは等が抜けているという事でいいのですか。それと関連するのですが、第7章で「市民と行政に限らず」を強調していますが、市民と行政に限らない協働のまちづくりの担い手という事が言いたいのだと思います。「市民と行政に限らず」が何度も出てくると、じゃどこよと感じてしまいます。敢えて書かないで、「協働のまちづくりの担い手」ということで統一した方がいいのではと思います。例えばですが第2章とかで定義するとか、「協働のまちづくりの担い手」と言えば、市民や行政に限らないんだよと言ってしまえば、これは「協働のまちづくりの担い手」という言葉だけで済むし、第6章の「市民や各種団体等」も取ることができます。全部「協働のまちづくりの担い手」と言い切ってしまった方が、すっきりすると感じています。第7章の指針の見直しのところですが、検証するのは「あり方」だけなのか、「やり方」とか事業そのものとか、場合によっては目的とかも見直すことがあるのか、もう少し広くとらえた方がいいのかなと思います。それと「協働のまちづくりの充実を図るとともに、発展的に推し進めます」とありますが、何を推し進めるのですか、多分協働のまちづくりをだと思えますが、推し進めるものは何なのか、曖昧かなと感じました。

石井会長： はい、ありがとうございました。言葉の使い方というか、定義の部分の話もありました。様々な側面から見ていただきましたが、事務局で答えたいところはありますか。

事務局（高橋）： 今御意見をいただいたところでは、「市民や各種団体等」と「市民と行政に限らず」のところは、そのとおりだと思いますので修正させていただきたいと思います。推進組織のところでは、まちづくり協議会は担い手であるので推進組織、市民活動支援センターは支援なので推進と並列ではないのでは、という御意見をいただきましたが、その辺を皆さんで御協議いただければと思います。

石井会長： 他の委員の方も御意見をお願いします。

松丸市長： 行政で作るものは、どうしても硬い文章になってしまいますので、市民の皆様が読みやすいものにしたいと思っています。その辺をアドバイスいただきたいと思いますのでよろしくお願いします。

石井会長： 他の自治体を見ていると、指針は指針で読みやすいものを作りますが、A5の見開きでハンドブックを作ったり、小さい読み物などを作ったりしていますので、それはやり方だなと思います。

事務局（高橋）： 協働という文言がわかりにくいという事もありましたが、市民目線で

協働のまちづくりとはどういう事か、市はどういう事を考えているか、というのを別に作った方がいいかもしれません。

正木委員： これはこれで通して、もっと分かりやすい言葉に書き換えて出した方がいいと思います。それから、12ページの第6章で突然星印が出てくるので、前後と同じ1, 2, 3の方がいいと思います。

石井会長： 第6章は全部を包含するような理念的なものが書いてあります。守谷市が目指している姿3つだと思いますので、最後に持ってきた方がいいと思います。

徳田副会長： 第6章は第7章の今後の展開よりさらに先の話だと思います。

事務局(高橋)： 協働のまちづくり指針に、新たに市長の思いをここに入れたので違和感があるのかもしれない。

石井会長： 私からも書き方の中で何点かあります。市民や市とか、市や市民と書き方の順番が違うので、統一した方がいいと思います。それから行政、自治体、市という言葉が出てきますが、統一できるなら一つにした方がいいと思いますが、市民目線だとどれがいいのでしょうかね。

佐藤委員： 市が一番なじみやすいと思います。

石井会長： そういうところが文言の使い方としてありました。それから、6ページのところのパターン図ですが、見る人によっては行政は市民にやらせただけか、という風に見る人がいると思います。子育て支援のところに行政が入っていないじゃないとか、コミュニティビジネスの創出や地場製品の消費拡大にも行政は関わらないということ、と勘違いしてしまうと思います。ここに行政を入れ込んでいくとすっきりしないので、全部行政を抜いておいて、欄外に行政はそれに対応するような支援をしていく、という風にしておいた方が読みやすいかなと思いました。それから8ページのまちづくり協議会の役割の中に、「範域」という言葉が出てきますが、そんなに主張しなくてもと思います。範域、範域と強調すると、柔軟に連携することのイメージすら削いちゃうような気がします。10ページの情報の共有化のところ、「情報共有の場の提供」が特だしになっている印象です。次の人材育成と組織支援の下2段ですが、市民公益活動助成金事業、市民提案型協働事業の2つの活用と限定してしまっているのか、その他必要な事業としておいた方が良かったと思いました。第6章のところは先ほど言った場所の問題と、最初の星印の「地域の課題解決」と内容が一致していないと思いますので、再考していただきたいと思います。それと「相互補完」という言葉がここにだけ出てきますので、他の言葉に置き換えるか説明が必要だと思います。

徳田副会長： 今話を伺っていて、6ページのパターン図ですが、行政が6番にしか出てこないで引いている感じがします。3ページの図からの続きのはずなので、3ページの3パターンから4, 5, 6と続いていくと、ああなるほどねとなると思いました。この図はこれからの協働に行政は関

わらないのです、と言っているように見えてしまいます。今までのパターンに加えるのだよ、変わったわけではなくてもっと担い手が多様になってくるんだよ、多様なつながり方があるんだよ、というところを理解してもらえそうな図にした方がいいと思いました。それと第4章で、これは条例から引いてきたのでとありましたが、今日いただいた現行のもの9ページを照らし合わせると、前の方がわかりやすいところが結構あるなと思います。前の方は自治会・町内会等、PTA・子ども会・父母会等とありますが、新しい方だと市民公益活動団体とくくられていて、市民公益活動団体の定義もさらっとしかないので、伝わりにくいと思いました。市の役割のところは古いバージョンの9ページを見ると、後退しているような感じがします。例えば前のものだと一人ひとりの職員の意識の向上だけではなく、組織横断的な取り組みとなっています。そういう点でもマニア的にみると、さらに引いてしまったのと見えます。それに先程、石井会長から10ページの情報の共有化のところ、「場」だけ取り出されているのに違和感があるとありましたが、これも前は「ルール作り」と「場」の2つの柱があったのが、「場」だけになっているので違和感があるという事です。なぜ「ルール作り」が消えたの、もう出来たからという事ですかね。だとしたら、そのルールにのっとって、というように書いてあげればと思いました。

石井会長： 第4章は条例をそのまま載せているという事ですね。そのままなら指針に載せる意味はないので、なるべく市民が理解しやすい書き方に変えた方が良いでしょう。

佐藤委員： 徳田副会長の話を聞いてすごく納得したことがあります。指針を読んでいて、すごく大きな話で素晴らしいことが書いてありますが、この中に私はいないように感じました。しかし、前のものを見るともっと具体的なことが書いてあるので、この具体的な中なら私も含まれていると感じました。もう少し具体的なものがあるといいなと思いました。

石井会長： 全部を細かく説明する必要はないですが、大事なところは元の指針にあるような説明事例があればよいですね。

佐藤委員： これを読んでいて、市民公益活動団体の中にPTA・子ども会・父母会等が入っている認識がなかったです。

石井会長： PTAとかは、公益団体ではないという見解もあるので、抜いたという事ですか。

事務局(高橋)： いいえ、簡潔にした方がいいかと思いましたが、もう少し詳しくした方が良かったかもしれません。

正木委員： 7ページ上の図、「まちづくり協議会」における「協働」の領域は、3の「まちづくり協議会」による地域づくりに入れるべきだと思いますので、まちづくり協議会のイメージ図の下に入れた方が良いでしょう。

須賀委員： ある市民の方が、まちづくり協議会の委員にならないかと誘われたそ

うですが、まちづくり協議会のメインの業務が、市でやりきれないものを押しつけられているような感じがして、その人が考えるまちづくりのイメージと合わないので、入らなかったという事でした。

松丸市長： その方がそう感じたのはもっともだと思います。まちづくり協議会は、今まで市で一律に行っていた行政を、地域にあったやり方で実施してもらおうという事です。ある程度の予算を支出して、自主的に実施していただいた方が効率的であると思い、組織化を進めているところです。

石井会長： 一般的には自治会の役員とかをやっていないと、強制的な難しい活動ばかりがまちづくり協議会にあって、先程の「小・中学生の提案」があった楽しい事業は、ここではやれないイメージを持っていると思います。まちづくり協議会の人たちに支えてもらわなくても、楽しい事業は身近なお父さん・お母さんが支えて実現しようとなる。そういうお父さん・お母さんたちがこの指針を見たときに、これは自分たちのことだと思えるページがあるといいですね。

本来はまちづくり協議会を作る過程が一番大事で、今までどおりのメンバーが揃うだけでは、新しい人たちは自分たちと違う組織だと思うのです。組織作りは最初が重要なポイントで、そこから見え方も発言も人の集まり方も変わってくると思います。

残り時間が少なくなりましたが、椎名委員どうですか。

椎名委員： 全体的に「協働のまちづくり」という言葉がたくさん出てきて、しつこい感じがしました。16ページ解説の③に公益性の活動をするPTAとありますが、PTAは自分たちのことをする公益性なので、少し違和感があるように思いました。

石井会長： 公益か、共益かというところすごく深い話になってしまいますし、前回の指針もPTAや子ども会を守谷市は公益と捉えてきています。集まっているメンバーというより、やっている活動そのものが不特定多数ですとか、より広範囲の人たちに利益を及ぼしているという事、あるいは地域の防犯パトロールや見守り活動をやるというのが、PTA育成会のみならず、地域ぐるみの役に立っているという捉え方をすれば、公益的な活動をする団体といえることができると思います。

徳田副会長： 私の勘違いかと思いますが、第8章以降は条例なので今回は手を付けられない部分だと思って見てなかったのですが、条例の中の解説の部分は手を付けられるという事ですか。

事務局（高橋）： 解説については表現の修正は可能です。

石井会長： 解説のところは現在に即したような表現にした方が良いと思いますので、何かあれば後日修正してください。はい、それ以外のところで何かありますか。

徳田副会長： タイトルと小見出しの整合性で気になるところがあります。5ページの第3章守谷市が目指す協働のまちづくりで、中身が基本原則で始まり

ます。前の指針は前文のようなものがあつたので違和感はありませんが、何を指すんだらうと思つたら原則が書いてある、大見出しと小見出しの整合性が微妙だと感じます。6ページの2番は分かるのです。何を指すのだらう、「発展的かつ幅広い協働の推進」なのねと。7ページの「まちづくり協議会」による地域づくり、まあそうなのだらうけれど、「まちづくり協議会」はどんな地域づくりを目指しているのだらうな、というものがあって初めて、ああ守谷市はこれを目指しているのだとわかります。第5章10ページですと、「協働のまちづくりを推進するために」が大見出しなので、推進するためにどんなことが大切なのかなという意味でいくと、1担い手の意識向上、2情報の共有化、3人材育成と組織支援、ああなるほどなと思ひますが、4推進組織をどうするのですかね、というのがないのです。第7章も今後の展開ですが、どう展開していくのかなと思つたら、1協働のまちづくりの評価となつて、2番で今後の展開となっているので、ああ大見出しに戻つてしまつたと思う。大きな章のタイトルとそれぞれの項目のタイトルが違うのかな、抜けているものとかが見えてくるなと思ひました。

石井会長： 今日の確認事項と今後の進め方について決めなければなりません、指摘する事ばかりで改善案については議論が及ばなかつたですが、大きな視点でいきますと表現とか、佐藤委員がいう自分がここにいると思へるような表現や事例が大事だらうと思ひます。徳田委員が言う章の構成と見出しもチェックしないとイケないと思ひます。条例の解説については、後で見てください。市民の言葉の使い方と、連携と協働の使い方、支援と推進組織についても検討が必要です。時間がオーバーしましたので、今後について事務局からお願いします。

事務局(高橋)： いろいろ御指摘いただきましてありがとうございます。皆さんの御意見をいただく期間を1週間設けまして、修正をかけて会長、副会長に見ていただいて、そこでまた修正いただいたものを皆さんに見ていただく。さらに修正が出てくれば同じことをもう一度実施する、という事にしたいと思ひます。ある程度めどがついたら、次の推進委員会の日程を調整させていただいて、答申をいただくという事でお願いします。

8 その他

石井会長： その他皆さんからありますでしょうか。事務局からはありますか。

事務局(鈴木)： 事務局からは特にありません。

石井会長： それでは、本日用意された議事は全て終了しましたので閉会といたします。スムーズな議事進行に御協力いただき、誠にありがとうございました。

9 閉会